

## 熊本発の乳酸菌でベトナムの農畜産業支援 ～高濃度乳酸菌による薬剤使用量の削減と糞尿の堆肥利用を促進～

国際協力機構（JICA）は2月3日、「中小企業・SDGs ビジネス支援事業 案件化調査（中小企業支援型）」において株式会社安藤通商（熊本県熊本市、安藤千治代表取締役）が提案する「乳酸菌活用による抗生物質使用低減を通じた農畜産業のバリューチェーン改質に向けた案件化調査」（ベトナム）を採択しました。

ベトナムは農業国であると同時に、世界第5位の豚飼育頭数を誇る畜産国でもあります。家畜への抗生物質やワクチンの大量投入による安全性への懸念やコスト高、及び、そこに起因する糞尿の臭気や堆肥利用率が低いといった糞尿処理の問題を抱えています。

同社が開発・製造・販売する高濃度乳酸菌は、通常の製品より生きた乳酸菌（生菌）含有率が20%～30%高く、さらに生菌の場合のデメリットであった消費期限も6カ月と通常の倍以上の期間となっています。この高濃度乳酸菌をベトナムに導入することによって、家畜への薬剤使用量の減少による安全性の確保、コストの低下、及び、糞尿の悪臭低減、堆肥の利用促進による農業の生産向上、等が期待されます。



畜産用飼料添加物



畜産用整腸培養液

本事業では、Phu Yen 省にある農村開発省傘下のベトナム農業科学アカデミー（VASS）のナショナルセンターと協力して、製品の販路開拓に向けた調査や、現地で豚への乳酸菌試験投与を行う有効性調査、乳酸菌投与によるコストメリットの検討、現地環境下での乳酸菌の増殖や生菌維持の可能性調査等を行って、将来のODA事業やビジネス展開に向けた準備を進めます。

本事業は、「案件化調査（中小企業支援型）」として実施されます。「案件化調査」は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたものです。2012年度から実施されており、2019年度第二回は昨年10月に公示を行い、33件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考：（プレスリリース）案件化調査2019年度第二回公示の採択結果について

URL：[https://www.jica.go.jp/press/2019/20200205\\_10.html](https://www.jica.go.jp/press/2019/20200205_10.html)

### 【本件に関する問い合わせ先】

JICA九州 市民参加協力課 上島・勝田

TEL 093-671-8204 e-mail: katsuta.yukihide2@jica.go.jp